

#### 第4回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」発言録

日時：2022年12月9日（月）17時～19時

属性： ○学生、●鈴木先生、・教員、■マスコミ等

●学生の声をお願いします。

○感想ですが、名古屋大学の一人ひとりの学生への面談対応は、見捨ててないよ、のメッセージが学生に伝わる事が大きい。コロナ初年度入学の3年生ですが、大学の先生に話しかけてもいいのかな？と思っていたが、先生としゃべれるのは学生の安心につながる。

●先生とサシで喋ることはどうですか。

○ゼミを選択した2年生の前期が初めてで、そこからしゃべるようになった。1年生の時は殆ど無かった。

●先生はおしゃべりが好きで学生が好き。余計な事も言うけど為になる事も言う。

○感想として、大学生になったという実感について興味がある。ゼミやサークルとかコミュニティに属しないと大学生の実感が無い。何かに属すること。コロナは4年生の時に卒論指導で先生と話した。先生も自宅から指導していて皆大変。先生とはお会いできないけど、サシで話すことが安心感に。ゼミのオンラインの最初に、「みんな会えないけど元気？」の声かけでも安心感になる。コロナ1年目が4年生で卒論だったので。

●皆元気にしていますか？の声かけが良いので、授業の最初に一言言ってくださいと、先生方には言っていました。

○今4年生なので2年生以降コロナです。先生から、学生と会えて嬉しい、皆んなと会えて嬉しいと言ってもらったのは良かった。年度初めに先生から会えて嬉しいと言ってもらった。先生方も心配してくれている、離れても見てくれているんだと思えた。4年生で生協学生委員会も引退だが、直前で思う事としては、3年生で繋がりを欲していない学生もいること。上級生向けのつながりの企画も、人が集まらない。コロナでは一人で何とかなかった、一人で生活できたのが苦でなかった、つながりがなくても、つながりなんて、と思っている人へ、今後繋がりの良さの価値を、色々な人に届ける必要がある。

●先生がそう思っているのは大事。

○200名だと顔も見れない事もある。顔を見て話す先生も大変だと思える。

●そういったつながりの波に乗れない学生は、今回はもういいですと言われる感じがある。そういう学生をこっちの波に乗せるのは難しいけど大事。

○名古屋大学生と総長の対話がzoomで行われていたが、総長への質問が結構あったのが驚き。Zoomは結構一方通行になりがち。話を聞いて何かありますか、と聞かれて、無いことはないけど、しゃべれない自分があった。質問は一杯あった。質問はいつでもどうぞなのか、総長からなのか。

●Q&Aに要望が出て、スタッフが拾って、学生に話してもらおう。それに総長が対話する形。憤っている学生の意見もあったが、総長との話では大人しく。卒業式がなくなりそうで、私の時は良いけど後輩は。総長が学生の時の世代は、上の人と言ひ合いをしていたので懐かしい。

○学生相談室を利用したいが、どこにあるか知らなくて、成績のことや生活のことの相談をしたいのだが、ハードルがあった。日本の大学でも3人に1人が相談していて、意外といるんだと思った。自分で調べて、言うて見ようと思う。

●総長との対話で、中国の留学生は実家の中国からつながっている。日本に入国していないと次のステップにいけないので大変です、という話。教えてくれてありがとうと言って、すぐ対応している。

○つながりを持つことが大事。僕は減茶苦茶運がいい。サークル紹介が対面でやられて、たくさん話をしてご飯も食べた。ゼミ配属は面倒見の良い先生で、最近の話題や研究の話をしてくれた。なので自分自身はつながりが大事だと感じている。一方で、つながりを求めない学生が一定数いると思っている。3年生は最初、1、2年生時はオンラインで、3年生になって対面活動復活すると言われたけど、1、2年生の時はコロナ禍でも、人間関係ができていて、コミュニティを無理に広げなくてもいいかなど。サークルに入っている活動もあまりしていない、モチベーションもあまりないなあとと思っている学生もいる。サークル活動したくても運営方法も分からない。学園祭で出し物も3年間やっていないので、どうすればよいのか？やりたくてもできないのと、別にやりたいとも思っていないとが混在している。このままだと悪循環になるのではと思っていたが、案外そうでも無いのかなと思っている。今の1年生は対面活動が再開で入学して、従来の大学生活の希望を持っている。高校生活が

コロナで制限された分、大学生活を良いものにしたい気持ちが強く、勉強もサークル活動も頑張ろうと、自分から先輩と関係を持とうとしている。授業も対面が増えてディスカッションで交流しても、学科の友達でも仲良く、このまま人間関係溢れる大学生活ができるのではと思う。一方上級生にも、つながりを求めない上級生へのアプローチ、求めたくてもできない上級生もいるかもしれないので、そこをどうすれば良いのか。

●一人二人でも仲間が見つかると思ってしまう、と学生相談に来る学生も言っている。広げるにはエネルギーがいるが、この人一人でも見つければ安心して大学に来れる、OKになる。そこからプラスαだけだと、社会に出るとプラスαが無限に広がるけど、その狭いちょっとした枠だけしか知らないで、社会に出て枠がわーっと広がった時に、階段が大きくなってしまふのが、社会に出る前の就活もそうかもしれないけど、そこが心配。サークルが居場所ということですが、大学生協の学生委員会1年生からやっていたということですか？

○1年生から学生委員に入っていて、オンラインが多かったけれど、活動していました。

●学生委員という生協の居場所はどんな感じ？

○入って良かった。1年生の他の友達はあまり交流はなかったけど、僕は資料の作成の仕方など、活動が分からない事など先輩に聞いたり、オンラインで会議が終わった後に先輩と駄弁ったりして、繋がりもあって、オンラインでは楽しかった。そう言う機会が無い学生もいて、苦しかったのでは？

●名古屋大の生協学生委員も3年生が少ないが、そんな感じ？

○そんな感じで、3年生は4人しかいない。他の学年は10人ぐらいいるけど。

■興味深く面白く聞いていた。学生の相談は親の方に学生本人がメッセージを送れない場合に、どういった事があったのか気になりました。家内も私もバブル時代に学生生活を送っていて、自分の学生生活はこんなだったんだという固定観念がある。カミさんは自分の頃と比べてかわいそうだなと言ってしまふが、子供にとっては嫌な感じなのか？親との関係において、あるいは親からのメッセージで何かありますか。

●名古屋大学は2019年から教育連携室で先生やご家族からの相談を受けている。学生相談の件数が右肩上がりですと言う一方、先生に対しても学生指導で困ったら相談しに来てください、と言っても、ハートのある先生に限って、そんな大変な職場に行くわけにはいかないと相談されないのが改組で増員して、家族や先生専用のカウンセラーを置いた。感覚的には中高のような感じ。親御さんから内の子が引きこもっている、不登校、と言う相談が多い。かつては学生からが学生相談だったが、今は逆に親御さんから早く声をかけてくれないと、学生自分からだと手遅れもなる時代。本人が親とだったら一緒にいきます、と言って家族で来るのも多い。教育連携室では中高のスクールカウンセリングのような雰囲気。親子関係では、声掛けと言うよりも、自宅生の学生がステイホームで外に出られなくて、親とずーっと一緒にいなきゃいけないのが一番大変だったのではと思う。下宿生の方が一般的には不利と言われるのだが、コロナ1年目は自宅生も、苦労というか親との衝突が増えたり。比較に関しては学生委員もそうだけど、今のこういう時代を過ごした若者が新しい時代を切り拓いていく、つくっていく時だと思うので、若い人たちにまかせるとのこと。

■勇気づけられた。当然の事が当然で無くなったという話と、偶然が無くなったという話が結構心に響いた。自分の学生時代のあれも偶然これも偶然だったのか、色々な偶然があったんだなあと感じた。ある面今の学生も色々な偶然があるので、学生にまかせることにつながっていくのだなあとと思った。

●うまくまとめていただいたので、先生に司会を引き継ぎます。

・発言していない方、委員の方以外でも発言もお願いします。

○共感したのは人間関係の構築と偶然の所。前に会った人とまたたまたま会ったねがあった。人間関係の構築で、企画会議とか食トレとか色々な取り組みをされていますが、一番学生が元気になった、最初と最後で顔色が変わったなあ、など印象的なものがあればお聞きしたい。

●共通して言えるのは、プログラムが終わった後「良かったらライン交換して」の話をするかしないかの内から皆んなライン交換が始まったりとか、繋がりとか出会いを大切にしたい続けていきたいという事を感じた。散歩は私も参加しているが、散歩はいいね！自分が癒されちゃうので、自分が楽しんでもある。歩きながら自分の事を語る。最初今日の昼ごはん何ですかから、最後の方はこれから何をやりたいとか、抽象的な深い話に落としていく。カウンセラーは普段ずーっと聴いてばかりだから、自分の事は家でもあまり聴いてくれないので、2時間で自分の顔色も変わるんじゃないかと思ってます。学生さんも生き生き、楽しく元気になっているなあという感じもします。

○自分も散歩いいなと思います。全国大学生協の企画でもウォーキングチャレンジで、みんなで歩こうという企画をやっています。次年度に向けてこういうのも含めてやっていけたらいいなと思います。あと3人で話すとい

人余っちゃう時があるけど、そこはみんなざっくばらんに沢山話してたという感じですか。

●これはテーマが6個あって、一つのテーマに選択肢が3つか4つかあるので、一人の人が喋り終わったら、次の人が喋るというルールがある。聴いた人はその事に質問したりと、あらかじめ枠組みを作っておいてあげると、一人の人が喋ることにならないようになる。私の趣味はと喋ると、大学生だからそれぞれ詳しいけど、3人いるともう一人の人が、何とかですよねと言ったりして、そういうのもビックリする。

■鈴木先生に質問。学生支援本部はキャリアセンターも一緒になっているということで、3年生中心の就職活動について記事を書いたが、ガクチカ不足だとか友人が少ないだとか先輩のアドバイスが無いとか、例年以上に苦労している様子が見てとれたが、その辺りはどのようなケアをされてきたのか？キャリアサポートセンターと学生相談センターとの連携なども含めて教えていただければと思います。

●同じ建物の2階で、隣の隣がキャリアサポートセンターのフナツ先生で朝日新聞にコメントが出ておりました。連携と言うよりも、キャリアの先生はメンタルの専門では無いので、そういう時には船津先生が担当している学生を私がカウンセリングすることもあるし、私が3年生の学生に会っていて、就活はどうやってやったらいいでしょうか、と言い出したらキャリアカウンセラーここいるんだよ、と紹介したり。同じ建物同じフロアで仕事をしているのでそういう連携をしている。大多数というかイベント事はキャリアサポートセンターの事務方がかなりやっている。そこから先になると私は詳しくないですけども。

■結構ガクチカ不足なり、他の事含めて相談は例年よりは多いとか、何かお感じになったことなどありますか。

●ガクチカに囚われなくていいと船津先生も言っていたりしますけれど、学生はカウンセリングの中でも言う学生はいますね、確かにね。何も無いですって言って、ニートになりますとかそういう事を言ってきたりして、学生相談に来ている学生は粘りがちょっと足りないの。

■ありがとうございます。参考になりました。

・学生が死にたいと思う事があると思うのですが、私も逃げ出したいと思う事は結構あって一晩で治っちゃうんですが、死にたいと思っている学生は今の場合、本当に自殺につながる危険性がどのくらいあるのかなあというのが一つと、周りであった事で、死にたいという事でさらにそれが実際に行動に起こした訳ではないですが、人に対しても加害的になってしまったという、言葉だけですが、そういう学生がいた場合はもちろん、もう少し専門家に相談しないといけないと思うのですが、本当にそうなるのか、ただ口で言っているだけなのかが、ちょっと素人には分からないので、お伺いしたいと思ひまして。ただここで話せるようなことなのかも分からないので、2点についてお伺いしたいのですが。

●特に昨年度の秋は、本当に漠然とした気持ちだけど死にたいとなって来た学生の相談が多かった。中には試みようとしたが良い場所が見つからなかった、最後飛び降り手前まで行ったけど帰ってきましたとか、そういう学生が昨年度ですね。幸いコロナ1年目は内の大学もそこまで相談には無かったですが、でも2年目の時は先程申し上げたように緊急事例が本当に増えて、今年は幸い今の所何とかなっているんですけど、今年は真逆で失敗しましたと言ってやってくる学生の方が多いんですよ。気付いたら意識が飛んでたんでとりあえずまだ生きていますとか言って。いつあっち側に行ってもおかしくなかった学生ですね。綱渡りですね。

・そういう事はかなり直前まで特に考えた方が良くという事ですね。

●そうですね。まあそういう事を言ってくれてありがとうって言って、とりあえず彼らも死にたいというのがよろしくない事だから、言っちゃいけないと思っているんですけど、それを一人で抱えちゃっているの、そういう事をやろうと思ったとかだったら、言ってくれてありがとうという事ですかね。

・ありがとうございます。

・私も学生相談室長をやっていた事がありますが、学生カウンセリングって難しい仕事だないつも思っておりまして、すごく素晴らしい仕事でもありながら、時々かなり辛い仕事だと共有した事がありますけれども。先程名古屋大学の素晴らしい対策を聞きまして、大学人として特に、全員面接をされたのは凄く英断ですし、それが効果があったのはとても素晴らしい事じゃないかなと思ひました。学生の言葉にもあったように、大学が自分を見守ってくれているんだという所が、学生にとっては何か嬉しんだなと感じました。よく昨年出た翻訳本にロンリネスという言葉、孤独と訳しているのですが、むしろロンリネスというのは孤独じゃなくて孤立と訳した方が良くないかなあ。孤独はある程度みんな持っているんで耐えられるけれども、大学も見えてくれない、先生も見えてくれない、友達も見えてくれない、家族とも離れちゃっている、そういうロンリネス、孤立みたいなもの、これをどう大学で繋いでいくかという事の凄く良い参考例に、私は受け取りました。その他にも色々ヒントになる例があって、こう言った事を他の大学も共有していけたらいいなあと思ひました。もう一つだけ、生協学食の立場から

言うと、名古屋大学の学食でのアメフトの食トレを紹介していただきました。食べる事はとても大事だけど、食べる時のコミュニケーションもとても大事で、今難しいですが、生協学食に行くと、黙食・黙食・黙食って黙って食べる、と一杯貼ってある。コロナの状況の中で已むを得ない、それがいいんだという考え方もありながら、やはりコロナの中でも頭から黙食ではなくて、食べる事につながるコミュニケーションまで殺さない形に何とかならないかな、と個人的には思ってますけども、●先生二つの点にどうお考えでしょうか。

●大学の英断だと本当に思います。学生から自分のことを見てくれていると言ってくれたので、そうなのかなと思ってはいたんですが、そうなんだなあと考えて良かったです。特に、お前連絡来たかとか、お前行けよとかちょっとでも繋がりがあれば、先生に何とか君連絡来てませんか、とかそういうキャンパスの雰囲気。必ずしも全員と面接してないが、それをするぞというのが良かったのかな。黙食については難しい。内の中学生の娘も、ご飯食べた後しゃべればいいじゃないと言う。そうしゃべれば良いけど、ご飯食べた後さーっと帰ったり、授業に出たりで。授業中しゃべれたり、どこかでしゃべれたり。あとは運命共同体的にワクチン打って絶対大丈夫な人はここで思いっきりとか。

・大きな授業では難しいけど、グループワークを多めにすることで、学生にしゃべらせるとか、できるだけグループワークで、自己紹介を1年生なんかはしつこくやらせるとか。大きな声でなく、コロナもあるので、空気の流れを見た上で、しゃべる機会を奪っては可哀想だなと感じます。他に一人二人いかがでしょうか。

■消費者生活センターで相談員を長年やっていて、3つの大学で非常勤講師をやっているおかげで、大学生協とも連携している。私の勤務している大学で良かったなということをお話します。マルチ商法がコロナ禍ですごく増えています。消費生活センターには、止められなかった学生さんが何人も来て、●先生のお話を聞いて、帰って来なかった学生さんはひよっとしたら、と彼らの顔も浮かびます。でも自治体としては本人から相談を受けても、それを大学やご両親には絶対言えない。一方で自治体と大学の事務方と上手く連携が出来ていて、ある大学では、コロナになった段階で、いつも私はオリエンテーションで新入生へお話していたけど、出来なくなりましたねと、事務方から、じゃあ早野さんCDを作って、学生さん達に4-6月に流すので、聞いてもらって、少しでも消費者被害を無くしたいと言ってくれる事務方の取り組みもあったし、もう一つの大学では学園祭をリモートで行うので、その中の一つのコーナーでやって下さい。私とその大学の学園祭に行くと、視聴者は各クラブの責任者を全員集めていて、リーダー格のサークル・クラブの長が聞いているので、仮に学生が悪質商法に遭ったとしても、先生よりは同じサークルの先輩に話す方が話しやすい、という発想でやっていただいた。コロナが3年続いたので、学科の先生や事務方の応援もあって、消費者被害が防げている方向に行くのでは、という事例をご紹介します。

・ご紹介、貴重なお話ありがとうございます。

●岐阜大と名古屋大の東海国立大学機構も、対策を行わなければならないと機構長も言っていて、映像教材も準備している、遅ればせですが

・ありがとうございます。